

## 看護専門学校におけるクラス担当教員のリーダーシップ：行動測定尺度の作成とその妥当性

関，文恭  
九州大学医療技術短期大学部

吉山，尚裕  
大分県立芸術文化短期大学

三隅，二不二  
筑紫女学園大学

吉田，道雄  
熊本大学教育学部

他

<https://doi.org/10.15017/253>

---

出版情報：九州大学医療技術短期大学部紀要. 24, pp.25-32, 1997-03. Kyushu University School of Health Sciences Fukuoka, Japan

バージョン：

権利関係：

## 看護専門学校におけるクラス担当教員のリーダーシップ 行動測定尺度の作成とその妥当性

関 文 恭 \* 吉 山 尚 裕 \*\* 三 隅 二 不 二 \*\*\* 吉 田 道 雄 \*\*\*\*  
三 角 恵 美 子 \*\*\*\*\* 詹 恵 晶 \*\*\*\*\*

### Construction of Measurement Scale of Teacher's Leadership Behavior in School of Nursing

Fumiyasu Seki, Hironao Yoshiyama, Jyuji Misumi, Michio Yoshida, Emiko Misumi  
and Chan Huei Jing

In this study, we constructed a measurement scale of class-teacher's leadership behavior in school of nursing, based on PM leadership theory (Misumi, 1984), and examined its validity. A total of 2277 students in school of nursing responded a questionnaire asking about their class-teacher's leadership behavior and their morale. The results were as follows. (1) A factor analysis of the ratings of leadership items revealed four factors and twenty items were selected to measure P and M behavior. (2) Teachers were classified into four types, i. e., PM, P, M and pm, depending on the mean ratings of P and M behavior. (3) As for leadership effectiveness ranking in students' morale, the PM-type was the most effective and the pm-type was the least, with the other two types (P-and M-types) in between. This leadership effectiveness ranking supported the validity of this measurement scale and was consistent with the results obtained in other studies based on PM theory.

Key words : teacher's leadership, students' morale, school of nursing, leadership PM theory

#### 問 題

本研究の目的は、看護専門学校におけるクラス担当教員のリーダーシップ行動測定尺度を作成し、その妥当性を検討することである。

教育という営みが、教える者と教えられる者との人間関係に立脚して展開されるものである以

\*九州大学医療技術短期大学部 \*\*大分県立芸術文化短期大学  
\*\*\*筑紫女学園大学 \*\*\*\*熊本大学教育学部 \*\*\*\*\* 鶴集  
団力学研究所 \*\*\*\*\* 久留米大学比較文化研究科

本調査の実施に、ご協力いただいた看護専門学校の先生方と学生の皆様に厚く感謝いたします。

上、教師のリーダーシップ(指導)は、教育活動の中核的なものである(三隅, 1986<sup>1)</sup>)。このことは医療従事者としてのナースの教育機関である看護専門学校においても、決して例外ではないであろう。

今日、わが国の看護専門学校は、医療の高度化や高齢化社会の進展を背景に、ナースの養成機関として、その社会的役割を高めている。そこに学ぶ看護学生は、医療・看護に関する高度な知識・技術の習得はもとより、患者との人間関係に関する知識・技能の習得も期待されている。加えて、看

護学生自身も、青年期の若者として悩みを抱えたり、危機に直面することも少なくなく、こうした条件を鑑みれば、看護学生に対する教員のリーダーシップは、きわめて重要であろう。

さて、リーダーシップに関する初期の実証的研究は、リーダーの性格・資質と集団効果との関連に注目した特性論的研究が多かった。だが、集団の効果や雰囲気直接影响到するのは、リーダーの行動であることが実証され(Lippitt & White, 1943<sup>2)</sup>、また、リーダーの特性と集団効果との間に明確な関連が見い出せなかったことから(Stogdill, 1974<sup>3)</sup>、現在のリーダーシップ研究では、リーダーの行動や役割を重視する行動が重要な位置を占めている。

教師のリーダーシップ研究も、今日、その多くが行動論に立脚しており、教師の指導行動インベントリー(目録)を基礎とした因子分析的研究が、数多く行われてきた(竹内・矢吹, 1961<sup>4)</sup>; 徳田, 1962<sup>5)</sup>; 阿久根, 1973<sup>6)</sup>)。しかし、こうした因子分析的研究には、①調査対象や調査項目の特殊性を反映した行動因子が抽出され、一般的なリーダーシップ理論との関連づけが少ない、②抽出された指導行動の因子と外的基準変数(学業成績やスクール・モラルなど)との関連が十分検討されていない、などの問題点が指摘される(三隅, 1986<sup>1)</sup>)。こうした問題点を踏まえ、三隅とその共同研究者たちは、リーダーシップPM理論に基づき、小学校高学年(三隅・吉崎・篠原, 1977<sup>7)</sup>、中学校(三隅・矢守, 1989<sup>8)</sup>)、における教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性に関する実証的研究を行ってきた。

本研究では、PM理論に基づく教師のリーダーシップ研究の一環として、看護専門学校の教員(クラス担当)のリーダーシップ行動測定尺度の構成を試み、看護学生のモラルとの関連から、尺度の妥当性の検討を行うものである。

## 方 法

### (1) 調査票の作成(予備調査)

本調査に先立ち、看護専門学校のクラス担当教員のリーダーシップ行動測定項目(インベント

リー)を作成するためには、九州地区の国立病院附属看護専門学校で学ぶ看護学生に予備調査を実施した。予備調査では、クラス担当教員の日常の指導行動や、教員に期待する行動について自由記述を求めた。得られた自由記述について、内容的に同一のものはできるだけまとめ、欠落していると思われる内容を付加して最終的に82項目を作成した。また、併せて、看護学生のモラル項目(外的基準項目)を作成するために、学習意欲、精神衛生(ストレス)、帰属意識、連帯性、意思疎通に関する記述も収集した。モラルについては69項目を作成した。うち6項目は、臨床実習に対する意欲や満足度に関する質問である。質問項目に対する回答は、クラス担当教員のリーダーシップを含め、すべて看護学生による評定方式をとった。その理由は、これまでのリーダーシップ研究から、教師の自己評価よりも、生徒による他者評価の方が妥当性が高いことが確かめられているからである(三隅, 1984<sup>9)</sup>)。したがって、看護学生本人がクラス担当教員のリーダーシップ行動、および、自身のモラルについて評定を行った。評定は5段階尺度を採用した。

### (2) 調査の実施

本調査は、調査依頼に応じた全国の看護専門学校(53クラス)で実施された。回答者となった看護学生数は、2277人。リーダーシップ行動評定の対象となった教員(クラス担当)の数は53人である。調査は、無記名方式によってクラスごとに実施された。調査は、1995年から1996年にかけて実施された。

### (3) 分析方法

クラス担当教員のリーダーシップ行動については、評定結果に基づき因子分析を行った。そして、抽出された各因子の中から負荷量の高い項目を選び、P行動、M行動の測定尺度を構成した。また、リーダーシップのモラル(外的基準変数)についても因子分析を行い、項目を選定して変数を作成した。尺度の妥当性に関しては、PM4類型と各モラル得点の関係を検討した。なお、回答した看護学生の中には、男子学生も含まれているが、数が少ないので結果の分析は男女混みで行った。

結果と考察

1. 看護教員のリーダーシップ行動の因子分析

まず, リーダーシップ82項目の平均値と標準偏差を算出したところ, 14項目に分布の偏りが見られたので因子分析から除くことにし, 残りの68項目について因子分析(主成分分析, バリマックス

回転)を行った。その結果, 固有値の減少傾向と結果の解釈可能性から4因子解を採用した。以下では, 因子数が4の場合の結果について述べる。なお, 68項目中1項目でも欠損値を含む回答者のデータは分析から除外したため, 分析対象者は2209人となった。

表1 看護教員(クラス担当)のリーダーシップ行動の因子分析結果

項目の主旨	因子負荷量				共通性	
	I	II	III	IV		
Q48. 困ったことや悩みごとの相談にのる	(※)	0.794	0.017	0.071	0.084	0.643
Q58. 先生に親しみを感じる		0.775	-0.127	0.071	0.186	0.657
Q12. 個人的な問題について相談にのる		0.771	0.044	0.048	0.051	0.601
Q57. 学生の気持ちを理解してくれる	(※)	0.767	-0.091	0.126	0.201	0.653
Q49. 話を熱心に聞いてくれる		0.752	0.014	0.074	0.208	0.615
Q30. 問題が起こった時に意見を聞く	(※)	0.744	-0.035	0.012	0.201	0.596
Q51. 学生の立場に理解を示す		0.730	-0.157	0.057	0.260	0.629
Q11. 個人的な問題にアドバイスをくれる		0.729	0.077	0.082	0.038	0.545
Q10. 学生と接する機会をもってくれる		0.699	0.082	0.069	0.100	0.511
Q29. 先生と気軽に話すことができる	(※)	0.694	-0.114	-0.000	0.053	0.498
Q47. 学生一人一人のことを把握している	(※)	0.633	0.025	0.153	0.251	0.488
Q31. わからない箇所を授業時間外に教える		0.627	0.024	0.032	0.139	0.415
Q52. クラスの雰囲気をやかにする	(※)	0.618	-0.071	0.125	0.288	0.487
Q53. えこひきせず, 公平に扱う	(※)	0.613	-0.154	0.050	0.255	0.467
Q61. クラスの問題やめ事を一緒に考える		0.607	0.026	0.164	0.199	0.436
Q50. 自分のまちがいを素直に認める		0.598	-0.103	-0.018	0.224	0.419
Q32. 学生の質問に対してきちんと答える		0.594	0.054	0.067	0.375	0.502
Q35. 学生の自主性を尊重する		0.578	-0.037	0.171	0.283	0.444
Q36. 決まりに触れない限り自由にさせる		0.559	-0.254	0.003	0.198	0.417
Q59. 皮肉っぽく叱ることがある		-0.526	0.340	0.078	-0.170	0.428
Q13. 健康状態に気を配ってくれる		0.518	0.142	0.125	0.226	0.356
Q45. 熱心に指導してくれる		0.515	0.133	0.239	0.448	0.542
Q39. 問題が起きたとき臨機応変に対処する		0.515	0.100	0.195	0.395	0.470
Q60. 成績や行いを他の学生や学校と比べる		-0.371	0.354	0.195	-0.062	0.305
Q64. クラスでの話し合いを指導する		0.352	0.151	0.347	0.203	0.309
Q56. 将来や進路について指導する		0.351	0.171	0.333	0.175	0.295
Q62. 提出物を丁寧にみる		0.326	0.038	0.204	0.314	0.248
.....						
Q16. 授業中に居眠りをしないように注意	(※)	-0.007	0.698	0.090	0.107	0.505
Q15. 授業中に集中するように言う	(※)	-0.004	0.690	0.154	0.128	0.516
Q14. 授業中, 私語を注意する	(※)	0.010	0.651	-0.016	0.105	0.436
Q17. 授業中, 居眠りをしていると注意する		-0.106	0.634	0.098	0.169	0.451
Q76. 忘れ物をした時, 注意する		-0.006	0.599	0.182	0.022	0.393
Q4. 学校の規則を守るように言う	(※)	-0.119	0.595	0.098	-0.065	0.382
Q75. 授業中, 教室が騒がしい時注意する		0.034	0.592	0.041	0.101	0.364
Q8. 無届け遅刻, 早退, 欠席にきびしい	(※)	-0.094	0.567	0.069	-0.023	0.336
Q28. 休み時間や放課後に叱ったり注意		-0.182	0.523	0.084	0.021	0.314
Q2. 言葉づかいについて注意する	(※)	-0.022	0.521	0.260	-0.050	0.343
Q5. 行事に積極的に参加するように言う		0.112	0.490	0.225	-0.010	0.303
Q1. 挨拶などをきちんとするように言う		0.013	0.479	0.240	-0.030	0.288
Q74. 服装や身だしなみについて注意する		-0.080	0.453	0.252	0.035	0.276
Q46. 責任ある行動をするように言う		0.165	0.428	0.405	0.135	0.393
Q63. カットなって叱ることがある		-0.386	0.423	0.145	-0.035	0.350
Q81. カンニングなどがないように言う		-0.005	0.403	0.235	0.090	0.226

Q66. 社会の出来事に関心をもつよう言う	(※)	0.000	0.117	0.783	0.040	0.629
Q65. 本や新聞をよく読むように言う		-0.037	0.129	0.725	0.002	0.545
Q67. 社会の出来事について、話をする		0.081	-0.013	0.637	0.201	0.454
Q68. 勉強は自発的にするものと言う	(※)	-0.003	0.268	0.628	0.067	0.471
Q70. 人生のあり方について話す	(※)	0.159	0.018	0.607	0.212	0.439
Q71. 社会のきまりを守るように言う	(※)	0.060	0.317	0.551	0.072	0.413
Q72. 他人に迷惑をかけないように言う		0.106	0.380	0.516	0.031	0.424
Q69. わからないことは調べるように言う		-0.039	0.289	0.499	-0.000	0.334
Q44. 自分の意見をはっきり話すように言う		0.160	0.248	0.495	0.183	0.367
Q73. 予習・復習をきちんとするように言う		0.013	0.385	0.486	0.048	0.387
Q80. 話し合いに熱心に取り組むように言う		0.258	0.376	0.430	0.096	0.403
Q77. 誰とでも仲良くするように言う		0.165	0.214	0.429	-0.000	0.258
Q78. クラスで協力するように言う		0.258	0.334	0.420	0.082	0.362
Q41. 物を大切に使うように言う		0.128	0.402	0.413	0.119	0.363
Q27. ポイントをおさえわかる授業をする	(※)	0.360	0.051	0.055	0.694	0.618
Q23. 聞きやすい声で授業を進める		0.301	0.063	0.017	0.611	0.469
Q22. 理解を確かめながら、授業を進める	(※)	0.358	0.063	0.095	0.603	0.505
Q25. 質問にわかりやすく答える		0.405	0.046	0.037	0.600	0.528
Q18. 経験など具体例をあげて授業する	(※)	0.262	0.030	0.223	0.535	0.407
Q55. 熱心に授業をする		0.378	0.101	0.227	0.528	0.484
Q24. わかりやすく板書をする		0.257	0.038	-0.051	0.516	0.336
Q19. 授業中、指名して発表をさせる		0.055	0.181	0.149	0.483	0.292
Q20. 学生には、ヒントを与える		0.334	-0.018	0.031	0.475	0.339
Q42. 自分の意見や考え方を明確に示す		0.263	0.225	0.260	0.458	0.398
Q3. 冗談などを交え、楽しい授業をする		0.415	-0.066	0.102	0.449	0.389
因 数 分 散		15.98	9.18	2.37	1.95	29.48
寄 与 率 (%)		23.5	13.5	3.5	2.9	43.4

注(※)は、リーダーシップ測定項目として選択した項目

表1には、項目の主旨と因子負荷量を示している。68項目の全分散の中に占める各因子分散の割合は、第I因子23.5%、第II因子13.5%、第III因子3.5%、第IV因子2.9%であり、これら4つの因子で全分散の43.4%を占め、十分な説明力をもつと思われる。以下、1つの因子に.60以上の因子負荷量を示し、他の因子に0.45未満の因子負荷量を示す項目を中心に各因子を解釈してみよう。

第I因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q48, Q58, Q12, Q57, Q49, Q30, Q51, Q11, Q10, Q29などである。これらは、教員が学生の相談ののったり、気持ちを理解したり、クラスの雰囲気や和らげたりする行動を示す項目であるから、「学生に対する配慮の因子」と命名できる。第II因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q16, Q15, Q14, Q17, Q76, Q4などである。これらは、授業中の居眠りや私語を厳しく注意したり、学校の規則や生活態度に厳格さを求める行動であるから、「学習・生活面での厳格性の因子」と命名でき

る。第III因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q66, Q65, Q67, Q68, Q70などである。これらは、社会の出来事に広く目を開くように求め、また、生き方や人間関係のあり方を学生に示す行動であるから、「社会性育成の因子」と命名できる。第IV因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q27, Q23, Q22, Q25, Q18などである。これらは、授業でポイントを押えたわかりやすい説明をし、理解を確かめながら授業をする行動であるから、「学習活動への配慮と工夫の因子」と命名できる。

さて、抽出されたこれら4つの因子は、リーダーシップPM理論の立場から、どのように考察できるだろうか。看護学校における教育の目標は、医療・看護に対する知識・技能を確実に習得させるとともに、学生として、そして社会人としての基本的な態度を育成することにある。したがって、4つの因子のうち、第II因子「学習・生活面での厳格性の因子」と第III因子「社会性育成の因子」は、P行動の因子であると考察できる。他方、第I

因子は「学生に対する配慮の因子」と第IV因子「学習活動への配慮と工夫の因子」は、学生生活全般にわたる悩みや相談事に対応し、また、教授・学習に配慮と工夫をし、人間関係の維持を図ろうとする点でM行動の因子として考察できる。

## 2. 看護教員のリーダーシップ行動測定尺度の作成

上述の因子分析結果を基に、看護教員のリーダーシップP、M行動測定項目として各10項目ずつ選択し尺度構成を行った。ここで項目の選択基準は、因子負荷量が高いこと、および、内容的な重複を避け各因子を可能な限り代表できるようにすることである。その結果、P行動測定項目として、第II因子「学習・生活面での厳格性の因子」から、Q16, Q15, Q14, Q4, Q8, Q2の6項目、第III因子「社会性育成の因子」から、Q66, Q68, Q70, Q71の4項目を選択した。他方、M行動測定項目として、第I因子「学生に対する配慮の因子」から、Q48, Q57, Q30, Q29, Q47, Q52, Q53の7項目、第IV因子「学習活動への配慮と工夫の因子」から、Q27, Q22, Q18の3項目を選択した。

これらP、M各10項目を単純加算し、P得点、M得点を算出した。算出したP得点、M得点の平均は、それぞれ33.7、35.7であった。これらの平均を基準として、看護教員（クラス担当）をPM型、P型、M型、pm型の4群に分類した。その結果、53人の教員は、PM型12人、P型14人、M型14人、pm型13人となった。また、各リーダーシップ類型の教員に指導されている学生数は、PM型634人、P型517人、M型540人、pm型518人であった。

## 3. 看護学生のモラール（外的基準項目）の因子分析

リーダーシップ行動の外的基準変数である看護学生のモラールについては、まずモラール69項目の平均値と標準偏差を算出し、分布の偏りが見られた項目、および、臨床実習に関する項目を除く54項目に因子分析（主成分分析、バリマックス回転）を行った。その結果、固有値の減少傾向と結果の解釈可能性から7因子解を採用した。以下では、因子数7の場合の結果について述べる。

表2 看護学生のモラール項目の因子分析結果

項目の主旨	因子負荷量							共通性
	I	II	III	IV	V	VI	VII	
Q 96. 自分のクラスにとけこんでいる	0.76	0.10	0.01	0.03	0.04	0.06	-0.11	0.61
Q 118. クラス仲間とうまくやっていける (※)	0.72	0.34	0.16	0.05	-0.01	0.10	-0.08	0.68
Q 99. このクラスが好き (※)	0.71	0.30	0.26	0.05	0.03	0.06	-0.00	0.69
Q 97. 自分の個性を発揮しやすい (※)	0.68	0.06	-0.00	0.01	0.12	-0.09	-0.10	0.50
Q 103. 今のクラスの一員でいたい (※)	0.65	0.30	0.29	0.04	-0.00	0.11	-0.02	0.62
Q 129. 学校内に心を開ける友人がいる	0.64	0.07	0.03	-0.01	0.07	-0.00	-0.04	0.42
Q 121. 困ったら仲間が助けてくれる (※)	0.58	0.25	0.18	0.08	-0.03	0.04	0.03	0.45
Q 100. クラスの活動に積極的に参加	0.57	0.06	0.14	0.11	0.17	0.23	0.02	0.44
Q 110. 学校生活が楽しい	0.51	0.18	0.51	0.11	0.20	0.02	-0.13	0.63
Q 116. 友達が困っているとき助け合う	0.49	0.39	0.15	0.04	-0.03	0.11	0.03	0.44
Q 150. 勉強や学校生活のことで指摘し合う	0.47	0.43	0.12	0.08	0.03	-0.06	0.03	0.43
Q 101. 自分だけでなくクラスのこと考える	0.47	0.03	0.13	0.13	0.24	0.28	0.13	0.41
Q 114. クラスは、明るい雰囲気である	0.44	0.41	0.15	0.07	-0.03	0.13	0.00	0.42
Q 120. クラス内に励まし合う雰囲気がある	0.42	0.35	0.23	0.09	0.06	0.04	0.22	0.42
Q 136. クラスの話し合いはうまく運営 (※)	0.05	0.81	0.02	0.04	0.05	-0.01	-0.02	0.67
Q 135. クラスでの話し合いに満足 (※)	0.07	0.74	0.09	0.05	0.06	0.00	-0.07	0.58
Q 134. クラスでの話し合いは役に立つ (※)	0.16	0.66	0.11	0.07	0.11	0.07	0.00	0.51
Q 137. クラスで気軽に話し合える (※)	0.27	0.63	-0.01	0.06	0.08	-0.05	-0.08	0.49
Q 113. クラスはよくまとまっている (※)	0.41	0.60	0.13	0.03	0.05	0.09	0.02	0.57
Q 117. クラスはチームワークがとれている	0.46	0.58	0.11	0.04	0.02	0.12	0.05	0.59
Q 133. クラスでの決め方は参加的である	0.12	0.46	0.05	0.08	-0.03	0.16	-0.03	0.26
Q 112. クラスは全体として勉強しやすい	0.23	0.45	0.18	0.05	0.06	0.09	-0.00	0.30

Q108. この学校が好き	(※)	0.33	0.15	0.74	0.17	0.20	0.04	-0.09	0.77
Q104. この学校に入学してよかった	(※)	0.33	0.14	0.72	0.14	0.19	0.03	-0.09	0.73
Q107. 他の学校と比べてよい	(※)	0.17	0.14	0.71	0.13	0.15	0.00	-0.04	0.60
Q106. この学校への入学を家族は満足	(※)	0.17	0.05	0.54	0.01	-0.05	0.05	0.04	0.33
Q89. 学んでいることに誇りを感じる	(※)	0.18	0.08	0.42	0.17	0.35	0.06	0.04	0.38
Q109. 学校をやめたいと思うことがある		0.14	0.10	0.41	0.06	0.32	0.06	-0.35	0.43
Q140. 知らされるべき事が知らされない		-0.02	0.14	0.34	0.33	-0.19	0.15	-0.19	0.34
Q86. 先生の授業はわかりやすい	(※)	0.10	0.12	0.13	0.81	0.02	0.01	0.00	0.70
Q83. 先生の授業に興味が持てる	(※)	0.08	0.09	0.15	0.79	0.08	0.00	-0.02	0.68
Q85. 先生の授業を熱心に聞いている	(※)	0.13	0.06	0.06	0.69	0.22	0.24	0.07	0.62
Q87. 先生の授業で習ったことを理解	(※)	0.16	0.07	0.06	0.69	0.23	-0.02	-0.02	0.56
Q84. 先生の授業時間を長く感じる	(※)	0.04	0.03	0.11	0.68	0.10	0.07	-0.09	0.50
Q122. 先生の授業中に私語や居眠りをする		0.08	-0.00	0.02	-0.39	-0.22	-0.39	0.04	0.36
Q93. 授業以外にも進んで勉強をする	(※)	0.02	0.04	0.06	0.08	0.70	0.13	0.06	0.53
Q90. 予習や復習をしている	(※)	0.05	0.05	-0.02	0.06	0.66	0.19	0.05	0.49
Q92. 勉強がおもしろいと思う	(※)	0.04	-0.00	0.23	0.19	0.64	0.06	-0.08	0.52
Q94. 勉強をしたくないと思う	(※)	-0.04	0.02	0.16	0.06	0.59	0.10	-0.24	0.45
Q124. わからないことを先生に質問する	(※)	0.15	0.08	-0.07	0.13	0.44	-0.09	0.03	0.26
Q95. クラス当番をきちんとしている	(※)	0.13	0.05	0.03	0.02	0.00	0.79	0.04	0.65
Q126. 日直・掃除等をきちんとしている	(※)	0.15	0.07	0.01	0.00	0.03	0.79	0.04	0.65
Q111. 校則を守っている	(※)	0.07	0.05	0.18	0.09	0.06	0.59	-0.01	0.41
Q123. 授業中、関係ないことをする	(※)	-0.07	0.03	0.04	0.34	0.16	0.48	-0.10	0.40
Q102. クラスは掃除をきちんとしている	(※)	0.19	0.27	-0.06	0.01	0.13	0.45	0.08	0.34
Q130. 学校生活のことが心配で眠れない	(※)	-0.11	-0.03	0.06	-0.02	0.06	0.05	0.62	0.41
Q131. 落ち着かない心理状態に悩む	(※)	-0.18	-0.08	0.07	0.02	-0.15	0.04	0.56	0.38
Q132. 将来が何となく不安だ	(※)	-0.14	-0.06	-0.07	-0.02	-0.30	0.08	0.53	0.41
Q119. 勉強に追われてゆとりがない	(※)	0.14	0.01	-0.10	-0.01	-0.08	0.02	0.51	0.30
Q127. 先生から無理な圧力を感じる	(※)	0.02	-0.12	-0.39	-0.26	0.12	-0.01	0.45	0.47
Q147. 先生と他の先生の指示が違う		0.06	-0.11	-0.31	-0.27	0.13	-0.09	0.41	0.39
Q142. 意見が先生方に伝わっていない		0.02	0.15	0.32	0.34	-0.06	0.06	-0.39	0.41
Q151. クラスで勉強にきびしい雰囲気		0.03	0.17	-0.02	0.05	0.16	-0.04	0.38	0.21
Q128. 他の学校(学年)に負けたくない		0.18	0.21	0.16	0.02	0.30	0.01	0.31	0.29
因 数 分 散		11.7	4.0	2.8	2.3	1.9	1.8	1.5	26.0
寄 与 率 (%)		21.8	7.6	5.3	4.3	3.7	3.4	2.9	48.9

注(※)は、モラル測定項目として選択した項目

表2には、項目の主旨と因子負荷量を示している。54項目の全分散の中に占める各因子分散の割合は、第I因子21.8%、第II因子7.6%、第III因子5.3%、第IV因子4.3%、第V因子3.7%、第VI因子3.4%、第VII因子2.9%であり、これら7因子で全分散の48.9%を占め、十分な説明力をもつと思われる。以下、1つの因子に0.50以上の因子負荷量を示し、他の因子に0.40未満の因子負荷量を示す項目を中心に各因子を解釈してみよう。

第I因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q96、Q118、Q99、Q97などである。これらは、学生同士の友人関係の良好さやクラスへの帰属意識に関

する項目であるから、「クラスへの帰属意識の因子」と命名できる。第II因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q136、Q135、Q134、Q137などである。これらは、話し合いをはじめとするクラスの運営に関する項目であるから、「クラスの運営満足の因子」と命名できる。第III因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q108、Q104、Q107などである。これらは、学校に対する満足度に関する項目であるから、「学校満足の因子」と命名できる。第IV因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q86、Q83、Q85、Q87などである。これらは、授業への興味や満足度に関する項目であるから、「授業満足の因子」と命名できる。第V因子に高い因子負荷

量を示す項目は、Q93, Q90, Q92などである。これらは、自ら進んで学習しようとする意欲に関する項目であるから、「学習への内発的意欲の因子」と命名できる。第Ⅵ因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q95, Q126, Q111などである。これらは、クラスの当番や校則を守ることにに関する項目であるから、「学生生活における規律遵守の因子」と命名できる。第Ⅶ因子に高い因子負荷量を示す項目は、Q130, Q131, Q132などである。これらは、学校生活におけるストレスや精神衛生に関する項目であるから、「学校生活におけるストレスの因子」と命名した。

本研究では、看護教員(クラス担当)のリーダーシップ行動を評価する際の外的基準として、「クラスへの帰属意識」「クラスの運営満足」「学校満足」

「授業満足」「学習への内発的意欲」「学生生活における規律遵守」「学校生活におけるストレス」の7つのモラル要因を用いる。各要因とも5項目ずつを選択し、得点を加算して要因得点とした。なお、Q84, Q94, Q123, Q131, Q132は因子と負の相関を示していたので、逆転項目として処理した。

#### 4. 看護教員のリーダーシップ測定尺度妥当性の検討

以上のようにして作成した看護教員(クラス担当)のリーダーシップPM尺度の妥当性を、モラル要因(外的基準変数)との関連において検討してみよう。

表3 リーダーシップPM4類型別の看護学生のモラル平均

モラル要因	看護教員のリーダーシップ類型				全体平均	F 比
	PM型	P 型	M 型	pm型		
I. クラスへの帰属意識	19.3 (3.53)	17.9 (3.82)	18.6 (3.35)	17.2 (3.59)	18.3 (3.65)	34.73 **
II. クラスの運営満足	16.5 (3.50)	15.3 (3.43)	15.9 (3.06)	14.8 (3.26)	15.7 (3.39)	28.46 **
III. 学校満足	19.6 (3.48)	16.9 (3.99)	19.0 (3.55)	16.7 (4.02)	18.1 (3.95)	80.78 **
IV. 授業満足	17.7 (2.78)	14.2 (3.21)	17.2 (2.80)	13.9 (3.37)	15.9 (3.49)	236.71 **
V. 学習への内発的意欲	13.2 (3.06)	12.2 (3.02)	12.4 (2.97)	11.9 (2.95)	12.5 (3.04)	18.37 **
VI. 学生生活における規律遵守	18.4 (3.11)	17.8 (3.36)	18.1 (3.05)	17.2 (3.06)	17.9 (3.17)	13.32 **
VII. 学生生活におけるストレス	16.5 (3.21)	18.1 (3.16)	15.6 (3.24)	17.0 (3.16)	16.8 (3.32)	59.50 **

( )=SD, \*\* ... p<0.01

表3は、看護教員のリーダーシップ類型別、すなわち、PM型、P型、M型、pm型ごとの「クラスへの帰属意識」得点、「クラスの運営満足」得点、「学校満足」得点、「授業満足」得点、「学習への内発的意欲」得点、「学生生活における規律遵守」得点、「学校生活におけるストレス」得点を示している。分散分析の結果、すべての要因においてリーダーシップ要因の主効果が認められた(p<.01).

PM4類型の効果性順位については、「クラスへの帰属意識」「クラスの運営満足」「学校満足」「授業満足」「学習への内発的意欲」「学生生活における規律遵守」の6つの要因においてPM>M>P>pmの順となった。このように本研究で見出されたPM4類型の効果性順位は、これまでのPM論研究において、小学校教師や中学校教師、民間企業体、地方官公庁、大学のスポーツサークルで得ら



れた結果と共通しており、リーダーシップ測定尺度としての妥当性を示すものといえる。ただし、「学生生活におけるストレス」については、P型の看護教員の下で最高、M型の看護教員の下で最低となったが、この結果は、ストレスがリーダーの圧力P行動、M行動から直接的に影響されやすいためと解釈される。

最後に、本研究では、教師のリーダーシップが看護学生の学生生活全般に与える効果を幅広く検討するため、モラール項目の数を増やした上で、リーダーシップとの関係を検討したことをつけ加えておきたい。その結果、看護教員のリーダーシップは、「授業満足」「学習への内発的意欲」といった教授・学習過程におけるモチベーション、「クラスへの帰属意識」「クラスの運営満足」といったクラス内の友人関係の良好さ、「学生生活における規律遵守」という生活態度、そして、「学校満足」といった学校組織全体に対する満足度にも影響していることが示唆された。こうした結果は、小学校、中学校のみならず、看護学校という専門教育機関においても、教師のリーダーシップが教授・学習だけでなく、学生生活の様々な側面に影響を与えていることを示しているといえよう。

### 要 約

本研究では、看護専門学校におけるクラス担当教員のリーダーシップPM行動測定尺度を作成し、その妥当性を検討した。調査の回答者となった看護学生数は2277人。リーダーシップ行動項目に関して抽出された4つの因子、「学習・生活面での厳格性」「社会性育成」「学生に対する配慮」「学習への配慮と工夫」から、P、M各10項目ずつのPMリーダーシップ行動尺度を作成。外的基準変数としての看護学生のモラール（クラスへの帰属意識、クラスの運営満足、学校満足、授業満足、学習への内発的意欲、学生生活における規律遵守、学校

生活におけるストレスの因子）との関係を検討した。その結果、PM4類型の効果性順位については、ストレスを除く6つの要因についてPM>M>P>pmの順となり、本研究で作成した看護教員のリーダーシップ尺度は一定の妥当性を有するものと考察された。

### 引用文献

- 1) 三隅二不二 1986 教師の人間関係 前田嘉明・岸田元美 (監修)  
寺田晃・竹下由紀子・佐々木保行 (編) 教師の心理(1): 教師の意識と行動
- 2) Lippitt, R., & White, R. K. 1943 The social climate of children's group. In Barker, R. G., Kornin, J. S., and Wright, H. F. (Eds.) *Child behavior and development*. New York: McGraw-Hill.
- 3) Stogdill, R. M. 1974 *Handbook of leadership: A survey of theory and research* New York: Free Press.
- 4) 竹内長士・矢吹四郎 1961 Q技法による教師の類型の研究 I 教育心理学研究, 9, 1-11
- 5) 徳田安俊 1962 教師の教育的態度のQ方法論的研究 教育心理学研究, 10, 26-34
- 6) 阿久根 求 1973 教師のリーダーシップ行動に関する因子分析的研究 九州大学教育学部紀要, 17, 25-34
- 7) 三隅二不二・吉崎静夫・篠原しのぶ 1977 教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性の研究 教育心理学研究, 25, 157-166
- 8) 三隅二不二・矢守克也 1989 中学校における学級担任教師のリーダーシップ行動測定尺度の作成とその妥当性の研究 教育心理学研究, 37, 46-54
- 9) 三隅二不二 1984 リーダーシップ行動の科学 (改訂版) 第7章 教師のリーダーシップ pp. 243-285 有斐閣